

白玉しらたまの
(若山わかやま牧水まほくすい)

解説 秋の夜に呑む酒の風情を詠った詩。

白玉しらたまの 齒はに 沁しみとおる 秋あきの 夜よの

語釈 ※白玉＝白色の美しい玉。また、そのような物。

酒さけは 静しずかに 飲のむ べかり けり

通釈 秋の夜を一人静かに酌む酒の味、それは齒にしみ通り、腸はらわたにしみわたるような感じがして、疲れきった体にも、心にも生気が蘇よみがえって来る。こんな静かな秋の夜の酒は何といつても一人静かに飲むに限る。